第６学年２組　道徳科学習指導案

１　主題名　働く喜び〔内容項目C－（１４）：勤労、公共の精神〕

　　＜教材名　「働く」って、どういうこと？＞

出典：「きみがいちばんひかるとき道徳６年」光村図書

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 家庭や地域と連携した教科学習計画 | | |
| 月 | 教科 | 内　容 |
| ６  ７  ９  10  11  12  １  ３ | 総合  道徳  総合  国語  総合  道徳  総合  理科  家庭科  理科  道徳  道徳 | 地域の人の話を聞き、何のためにしたのかを考える。①  海のゆりかご―アマモの再生  D（20）自然愛護  地域の人の話を聞き、何のためにしたのかを考える。②  町の幸福論  地域の人の話を聞き、何のためにしたのかを考える。③  「働く」ってどういうこと  C（14）勤労、公共の精神  ようこそ、菅島へ！  C（17）伝統と文化の尊重  学習発表会  土地のつくりと変化  共に生きる地域での生活  生物と自然環境  「ありがとう」の気持ちを伝える  B（8）感謝  一さいから百さいの夢  D（22）よりよく生きる喜び |

２　ねらいとする価値について

人生をよりよく生きていくためには、集団の一員として、自らの役割を積極的に果たし、社会に貢献することへの喜びをもつことが大切である。社会に貢献していくための手段の一つが仕事＝「働くこと」である。生活を営むための糧を得るという目的に加え、自らが、仕事を通して社会に参画し、社会的責任を果たしているということを自覚することで、人は喜びや誇りをもって働くことができる。現代社会においては、雇用形態が多様化され、価値観も多様になってきている。教材を通して、「働く」意義や社会の役に立つ喜びを体得し、将来に向けての、勤労観・職業観の育みにつなげたいと考える。

３　子供の姿

　　本学級の児童は、１学期の反省をもとに、係活動に積極的な児童が増えてきた。ある係では、気持ちの良いクラスにするために工夫をしている姿が見られた。一方で、決まったことだから取り組んでいるという姿も見られ、自分と他者との関わりについて考えている児童は少ないと感じる。

４　教材と指導について

　　本教材は複数の資料から成り立っている。これらの複数の資料を扱うことにより、多面的・多角的に働くことについて考えさせることができる教材である。資料の読み取りだけにならないように、子供たちの係活動などの体験を通して感じたことなど、具体的な事柄を踏まえて話すように促す。

５　地域と連携した学習

本校の児童は、多くの地域の方々の協力を受けている。例えば、ビオトープ委員会という地域の方々の会は、季節ごとに校庭の手入れをしている。また、地域の見守り協力隊の協力もあり安全に登下校することができている。彼らは、お金のためにしているのではなく、子供たちのこと思って行動してくださっている。そういった人々に活動を続けている理由を聞き、その人の思いに触れ、働くことの価値について多面的・多角的な視野をもたせたい。

６　本時の学習

(１)本時のねらい

資料や友達の意見をもとに、働くことについて考え、働くうえで大切にしていきたいことを考える。

(２)本時の流れ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 児童の活動 | 〇伝え合うための工夫  ・その他の手立てや留意点 |
| つかむ（７） | １　家の人は何のために働いているのか話し合う。  ２　本時のめあてをつかむ。  **人は、なんのために働いているのだろう。** | ・身近に多くの職業があることに気づかせるために、事前に行ったアンケートの結果を提示する。  （導入の工夫） |
| 深める（28） | ３　資料１、２を読んで、話し合う。  **宇都宮さんと関島さんの資料を読んで、仕事に対する想いが伝わってくるところはどこだろう。**    ・おいしいチョコをつくらねばという使命感。  ・チョコを味わってもらいたいという夢。  ・人々の生命と財産を守ること。  ・みんなが知りたいことを、みんなが知っている言葉で伝えるという信条。  ・使命を果たせたという達成感。  ４　資料１、２、を踏まえて、話し合う。  **人は、なんのために働いているのだろう？**  ・自分の生活や周りの生活を豊かにするため。  ・自分の楽しいことに一生懸命取り組むため。  ・達成感や充実感を味わうため。  ・人の役に立つという使命感があるため。  ・誰かに喜んでもらうため。  ・もっと住みやすい社会にするため。  ・自分の夢をかなえるため。 | ・仕事に対する想いがなかなか見つけられない子のために、宇都宮さんの話を途中で切り、どんなことが　あったか話し合う時間をとる。  ○資料の読み取りや分析に終始しないようにするために、教科書を閉じて、二人の共通点を書いたり、自分の思いを具体的に書いたりするように指示する。  （話し合いを深める工夫）  ・身の回りの職業について考えるために、資料３を提示する。  ・周りの友達がどんな考えをもっているのか知るために、ペア対話で相談する時間をとる。  ・どんな思いで仕事をしているのか知るために、ボランティアで交通指導を行っている見守り協力隊の　浅岡さんを紹介する。 |
| 振り返る（５） | ５　振り返りをノートに書く。  ・はじめはお金のためと思っていたけど、友達や浅岡さんの話を聞いて、自分も達成感を味わえる仕事をしたいと思った。  ・自分は、誰かの役に立ちたいという気持ちが大きいと思った。 | ○授業を通して、自分自身は、どんなことを大切にして働きたいか考えて書くように助言する。  （振り返りの視点） |